

# 「自己決定」を大切にした体育専科教員活用推進校

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

本校は、大分県「体力アップおおいた推進事業」における体育専科教員活用推進校として6年目を迎えています。体育専科教員が配置され、担任とTT体制で体育授業を行える点は、本校の大きな強みです。

今年度は、「自己決定」をキーワードに、運動が得意な子も苦手な子も、自分のペースで安心して参加できる体育の授業や環境づくりを進めています。具体的には、下記の4つの視点を大切にして取り組んでいます。

- ・ 体育授業・体育的行事・休み時間において、自己決定の場を増やすこと
- ・ 自己決定場面を意識した体育授業の改善
- ・ 運動が苦手な子どもも安心して参加できる学習環境づくり
- ・ 休み時間に自分から体を動かしたくなる環境づくり（ハード面・ソフト面）



運動会の振り付け、作戦も子どもたちで決める



練習も実行委員が中心になって進める







昼休みの体育館開放(遊びを自分で選択)

持久走大会 部門アンケート〈3年生〉(copy)(copy)

Q1 持久走大会で、どの部門を希望するか選んでください。

- ①タイムチャレンジ (タイム測定、順位なし)
- ②順位チャレンジ (タイム測定、順位をつける) ※順位チャレンジの場合は、1000mのみ
- ③完走チャレンジ (タイムと順位なし)

☐ ①タイムチャレンジ (タイム測定、順位なし)

☐ ②順位チャレンジ (タイム測定、順位をつける) ※1000m

☐ ③完走チャレンジ (タイムと順位なし)



持久走大会も選択肢を設け、自分の好きな部門でチャレンジ

OPPシート 休み

<p>1今日の授業</p>	<p>2今日の授業</p>	<p>ゴールの姿 (6時間)</p> <p>浮けるようになって水が怖くなく慣れる</p> <p>どんな力がついたか (自分の成長)</p> <p>使った資料</p> <p>ゆっくり</p>
<p>3今日の授業</p>	<p>4今日の授業</p>	
<p>5今日の授業</p>	<p>6今日の授業</p>	



タブレット端末もフル活用(学習のペースを自分で調整)





学級担任、特別支援サポート補助職員も活用した T T 体制の充実

複数の大人と子どもが関わり合う体制づくりを大切にしています。



体育委員会ともコラボした運動環境づくり



待機時間が減るよう コート、用具の準備





準備運動は、なるべく子どもたちのリクエストも聞くことに



保健の実験は、なるべく一人に一つずつ行き渡るように準備



自己決定の雰囲気は心理的安全性へ



休み時間に自主的にビブスを整頓することも本校あるあるに

これまでに紹介してきた取組は、心理学者のデシとライアンが提唱した「自己決定理論 (Self-Determination Theory: SDT)」の考え方とも重なります。

「自己決定」は体育においても、運動技能の向上だけでなく、「運動って楽しい」「やってみたい」という気持ちを育てることにつながっています。